

【見附市青木浄水場更新事業が完成 構成企業 メタウォーター・中央設計技術研究所 他】

# 見附市青木浄水場更新事業が完成

## メタウォーター



中村社長



高見副市長

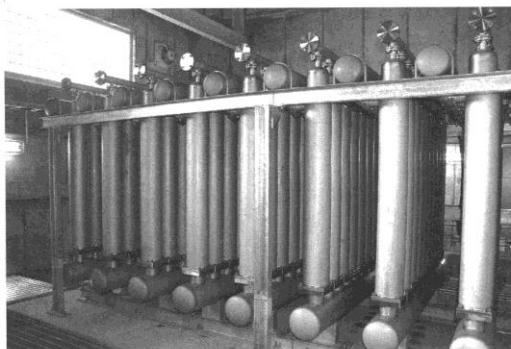


久住市長

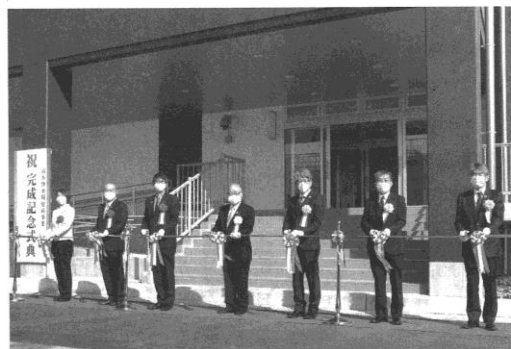
# 微粉炭十セラ膜で浄水処理

## 安全で良質な水道水を安定供給

メタウォーターは1日、同社を代表企業とする企業グループが施工した新潟県見附市の青木浄水場更新事業の完成記念式典を同浄水場で開催し、出席した約40人の関係者は、セラミック膜ろ過の浄水場として生まれ変わり、見附市と長岡市中之島地域に安全で良質な水道水を安定的に供給



施設能力は2万3000m<sup>3</sup>/日



テープカットで完成を祝う

する「新青木浄水場」の完成と稼働を祝った。更新事業は、新浄水場の設計・建設と運転・維持管理を一括で行うDBO方式で行われており、設計・施工期間は平成28年9月9日から今年3月31日まで、運転・維持管理期間は4月1日から令和23年3月31日までと

なっている。運転・維持管理業務はメタウォーターグループが設立した特別目的会社「見附ウォーターフロンティア」が担う。昭和44年に稼働した青木浄水場は、施設の老朽化が進むとともに、クリプトスポリジウムや原水である信濃川・刈谷田川

の濁度上昇などへの対応が必要となったことから、見附市ではDBO方式で全面的な更新事業に着手することとした。事業者は公募型プロポーザル方式で募集し、選定されたメタウォーターグループが同市と事業契約を締結した。メタウォーター以外の構成企業は▽

中央設計▽鹿島建設▽メタウォーターサービス▽緑水工業▽ジエスコホリウチー。旧浄水場の隣接地に建設された新浄水場の施設能力は2万3000立方m/日で、処理フローは沈砂池→原水調整池→マシカン接触池→塩素接触槽→混和槽→膜ろ過装置→浄水池となっている。1基あたり100本のセラミック膜モジュールを搭載した膜ろ過装置を5台設置しており、混和槽では微粉炭を注入し色度や農薬などを吸着する。

は、メタウォーターのウォータービジネスクラウド(WBC)を導入することで、関係者間でのタイムリーな情報共有や、蓄積したデータを活用した効率的な運転・維持管理を可能にした。完成記念式典では、発注者を代表して久住時男・見附市長が「全国に誇ることができる施設を建設していただいた。今後は安全・安心でおいしい水の供給をお願いしたい」とあいさつした。また、求償代表の高見真

二・長岡市副市長は「新浄水場の建設に関わった方々に敬意を表するとともに感謝申し上げる。今後も安全でおいしい水を中之島地域に届けてほしい」と祝辞を述べた。施工者を代表してあいさつした中村晴・メタウォーター社長は「平成30年1月の大雪災害や、新型コロナウイルス感染症の拡大といった逆風を、見附市上下水道局のご指導や地域の皆様のご協力で乗り越えることができた。心よりの感謝申し

上げる。本日から20年間の運転・維持管理業務が始まるが、構成企業の皆様と連携し、見附市水道事業の持続に貢献できるよう取り組んでいく」と決意を述べた。その後、新浄水場の入口前で記念のテープカットを行った。久住市長、高見副市長、中村社長、加藤浩一・見附ウォーターフロンティア代表取締役らがテープを切る。出席者から拍手が起った。